

施工マニュアル 【面材シリーズ SKW・SKWFL・SKWF・AKW】

施工前にご確認ください。

下地のチェック

まずは下記の「設計・施工に関する下地のご注意」をよくお読みのうえ、施工可能な下地であることをご確認ください。そのままでは施工できない下地の場合、適切な処理を行ってから施工してください。また、下地材の選定と構造の作成は、建築基準法や火災予防条例などの法令・法規に適合したものであるか、ご確認ください。

施工・加工工具

施工方法	加工	その他加工	
	切断	出隅・入隅	曲 げ
両面テープと接着剤を併用して取付け	シャーリング・電気マルノコ・電気ジグソー トリマー・ボール盤・ホールソー	SKW・SKWFL・SKWF・AKW 工場加工	工場加工 【曲げ加工最小RはP42～46を参照】

取付下地別 推奨接着剤

	プラスターボード※1	塩ビ壁紙※2	化粧合板※3	木・ハードボード モルタル・コンクリート
外観：鏡面仕上製品	●セメダインPOSシール +両面テープ	●コニシボンドMPX-1 +両面テープ(TM工法)※4	●セメダインPOSシール +両面テープ	●コニシボンドMPX-1 +両面テープ(TM工法)※4
外観：HL仕上製品	●セメダインPOSシール ●コニシボンドMPX-1 ●コニシボンドエフレックス ●コニシボンド変性シリコン +両面テープ	●コニシボンドMPX-1 +両面テープ(TM工法)※4	●セメダインPOSシール ●コニシボンドMPX-1 ●コニシボンドエフレックス +両面テープ	●コニシボンドMPX-1 +両面テープ(TM工法)※4

※1 上記シリコンコーキングと両面テープを併用してください。※2 エンボス仕上の壁紙は接着施工できません。※3 化粧合板の仕上げによっては接着強さが足りない場合があります。事前に化粧合板メーカーにお問い合わせください。※4 TM工法の推奨両面テープはコニシTMテープ W1・20・コニシボンドSSテープ WF102です。

設計・施工に関する下地のご注意

下地を新設する場合

施工可能な下地の例

- プラスターボード(推奨9.5mm以上)
- ケイカル板(推奨6mm以上・比重0.8以上)
- モルタル面(推奨 含水率4.5%以下・密着強度1.0N/mm²以上・不陸2mm以下)
- 合板(推奨9mm以上)

※上記の下地でも、化粧材の施工部分に塗装などの仕上げが施されると、接着不良によるハガレが発生する可能性がありますので、ご注意ください。
※下地材の選定と構造が、建築基準法や火災予防条例などの法令・法規に適合したものであるか、ご確認ください。

そのままでは施工できない下地の例【→は対応事例】

- RC壁への直貼り【→モルタル仕上げ】
- ALC躯体への直貼り【→GL工法及び鋼製壁作成】
- 湿気を帯びた下地【→充分乾燥させます】

そのままでは施工できない環境【→は対応事例】

- 施工場気温が5℃以下【→気温を5℃以上に上げてください】
- 施工場の湿度が90%以上【→湿度を90%以下に下げてください】
- 結露が予想される時【→結露しないように対策を取ってください】

既存下地に施工する場合

施工可能な下地の例

- タイル面(浮き・ハガレがなく不陸が10mm以下の場合に限ります。)
- モルタル面(含水率4.5%以下・密着強度1.0N/mm²以上)

そのままでは施工できない下地の例【→は対応事例】

- 塗 装 面【→塗装の除去、もしくは
施工可能な下地材を上貼ります。
(ビス固定等)】
- クロス面【→クロスの除去、もしくは
施工可能な下地材を上貼ります。
(ビス固定等)】
- 化 粧 面【→化粧部分の除去、もしくは(突板・シート・樹脂等)
施工可能な下地材を上貼ります。(ビス固定等)】

躯体への下地材固定方法

鋼製壁

下地材(プラスターボード等)を専用ビスで300mmピッチで固定してください。
※枠廻り・出隅・入隅部分の下地材端部は専用ビスで確実に固定してください。

RC壁(モルタル仕上げの場合)

モルタルはRC壁に対して接着が良いものを選定し、不陸がないように仕上げてください。
※モルタルの含水率が4.5%以下になってから施工してください。
(密着強度1.0N/mm²以上)

RC壁(木胴縁の場合)

24mm×45mm程度の縦胴縁を300mm・横胴縁を450mmピッチで躯体にアンカー・カール・釘で固定し、下地材(プラスターボード等)を専用ビス(300mmピッチ)と接着剤を併用して固定してください。

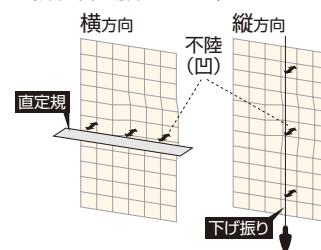
下地状態のチェック・対応方法

表面の汚れ

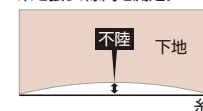
表面の汚れは充分に除去してください。

表面の不陸

下図のように直定規・下げ振り・レーザーレベル等を用いて壁面の水平・垂直の不陸を測定してください。
※現下地で施工可能な最大不陸は10mmです。
10mmを超える場合は、下地を作成してください。
(10mm以下でも、メタカラー面材の外観に影響が出る場合があります)



下地が凹の場合
糸を張り、隙間を測定。



下地が凸の場合
水平な定規をあてがい、隙間を測定。

